



〈雑録〉ペイン關税法ヲ論ジテ其改正問題ニ及ブ(4)

松井, 啓介

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 11(5):816*-828

(Issue Date)

1911-11

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051796>



子が出産手當ヲ受クル場合ニハ其産前二週間及ビ産後四週間、(三)本法施行後十二箇月間、(四)強制加入者タル被保險者ガ十六歳未満ナル間ハ釀金ノ拂込ヲ爲サザルモ延滞ト見做サル、コトナシ。從來ノ友愛會ニ於テハ疾病手當勞働不能手當ヲ受クル期間モ享益者ハ猶掛金ヲ爲スコトヲ要シ、此掛金ハ通常其享受スル手當中ヨリ控除セラレタリシニ本法ニ於テハ上述ノ規定ヲ採リシヨリ勞働者ハ一層ノ利益ヲ受クルコト、ナレル譯ナリ。

被保險者ガ其年及前年中ニ延滞セル釀金額ニ延滞ノ日ヨリ拂込ノ日マデ一年三步ノ利ヲ附シテ拂込ムトキハ釀金ガ延滞セザリシモノトセラル。但シ被保險者ガ延滞額拂込ノ日以後一箇月内ニ疾病又ハ勞働不能ニ陥リタルトキハ其疾病又ハ勞働不能ノ恢復後一箇月迄ハ前記延滞拂込額ニツキテハ猶延滞セルモノト見做サル

(八)任意加入者ガ釀金延滞ノ場合ニハ別ニ定ムル處ニ從ヒ享益ノ減少又ハ停止ヲ行フモノトス。

(九)此他(一)被保險者ガ一九〇六年ノ勞働者災厄賠償法及ビ其附則又ハ一八八〇年ノ備

主責任法ニヨリ若クハ普通法 (Common law) ニヨリ其負傷、疾病ニ關シテ傭者其他ヨリ損害賠償ヲ受ケ又ハ受クル權利ヲ有スル場合、(二)被保險者ガ公共團體又ハ慈善團體ノ設立ニカ、ル工場、病院養育院又ハ本法ニヨリ建設スル肺病療養院又ハ同一ノ施設内ノ同居者ナル場合ニツキテハ特殊ノ規定アレド事細密ニ亘ルヲ以テ略ス、(未完)

ペイン關稅法ヲ論ジテ

其改正問題ニ及ブ (其四)

商學士 松井啓介

(四)ペイン關稅法ノ影響

二、内國ニ及ボシタル影響

(其一)經濟上ニ及ボシタル影響

ペイン關稅法ガ物價產業並ニ「トラス」等ニ及ボシタル影響ニ就テハ研究資料ニ乏シキヲ以

テ遺憾ナガラ一々之ヲ明ニスルコトヲ得ズ。何トナレバ同法通過後僅々二箇年ノ時日ニ過ギザルガ爲メ諸統計ノ缺如セルヲ以テナリ。故ニ本項ニ於テハ世論ノ沸騰ヲ醸シタルペイン關稅ガ物價ニ及シタル影響ヲ鈔シク述ベントス。

米國ノ物價殊ニ食料品ノ市價ハ早クヨリ昂騰シ漸次民心ノ不安不平ヲ誘發シ物價益々騰貴シ來リテ生活困難ヲ感ジ一九〇九年ニ及ビテ輿論ノ注意ヲ喚起スルニ至レリ。更ニ同年一月其騰貴ハ從來ノ記錄ヲ破リ其後益々其度ヲ加ヘタルヲ以テ鬱積セル不平不滿ハ一時ニ爆發シテ彼ノ肉類「ボーイコット」事件ヲ發生セリ。即チオハイオ州クレベランド市ヨリ勃興シテ、該運動ハ殆ンド各州都市ニ漫延セルハ世人ノ知悉スル所ナリ。彼ノ紐育ノ一市街ニ於テ婦人ノ一團ハ肉類ノ騰貴ノ結果其一片ヲモ購求スルコト能ハザルガ爲メ肉屋ニ亂入シテ堆積シアリタル肉類ニ石油ヲ注ギタルノ暴行ニ徴シテ其全般ヲ窺

フニ足ラン。茲ニ於テカ米國ニテハ生活費増加ノ根本原因ヲ調査シ之ガ救濟手段ヲ講ズルノ必要ヲ生ジ經濟學者ノ研究ハ勿論農務省各州會各商工業者ノ團體等其調査ニ腐心セリ。議會モ亦委員ヲ設ケテ生活費暴騰ノ原因ヲ調査スベキ事ヲ揚言シ遂ニ上院ハ一九一〇年二月九日生活費問題ニツキ委員ヲ設クルノ案ヲ可決シ翌十日六名ノ委員ヲ選任シ調査ヲ開始セシメタリ。其後間モナク少數黨ナル民主黨モ亦研究ニ著手セリ。物價騰貴ノ人心ヲ動搖セシムルハ決シテ怪ムニ足ラズ、之レ各國ノ歴史ノ證明スル所ニシテ實ニ米國ノ如キハ南北戰爭後物價騰貴ノ爲メ非常ナル擾亂ヲ來シタルコトアリ。サレド物價ノ急激ニ而モ最高點ニ増騰シタルコト這回ノ如ク甚シキハ未ダ嘗テ見ザル所ナリ。

今ノトーン教授ノ指數ヲ以テ其騰貴ノ階段ヲ明ニセバ左ノ如シ。

(1890—1899) (100.0)
1890.....96.6
1891.....96.1
1892.....90.0
1893.....90.6
1894.....83.3
1895.....81.5
1896.....74.3
1897.....72.5
1898.....77.8
1899.....85.2
1900.....91.4
1901.....91.5
1902.....101.9
1903.....99.2
1904.....97.2
1905.....98.3
1906.....105.2
1907.....109.9
1908.....105.5
1909.....111.9

故ニ一八九七年ノ物價指數ハ最低ニシテ一九

〇九年ハ最高ヲ示シ即チ五割四分三厘ノ騰貴ナ

リ。次ニ一九〇九年ニ比シ一九一〇年ノ上半期

ノ平均騰貴ハ五分ナリ。一八九七年ノ指數ヲ一

九一〇年四月九日ニ終レル一週間ノ最高指數一

二〇・五ニ比較セバ四八・〇ノ差即チ六割六分二

厘ノ昂騰ヲ演ゼリ。換言セバ一八九七年ノ貳圓

ハ壹圓貳拾錢ニ下落セシコト、ナレリ。

更ニ教授ノ指數ヲ舉グレバ左ノ如シ。

1907	月	指數
一	月	106.6
二	月	108.0
三	月	109.4
四	月	110.6
五	月	113.4
六	月	113.4
七	月	111.8
八	月	110.2
九	月	112.4
十	月	112.0
十一	月	106.2
十二	月	103.8

	1908	1909	1910
一	月.....105.0	106.7	116.8
二	月.....102.8	107.7	116.6
三	月.....103.9	110.4	119.6
四	月.....105.4	110.7	119.7
五	月.....105.3	114.1	117.7
六	月.....106.2	114.4	
七	月.....107.3	112.8	
八	月.....106.7	111.4	
九	月.....106.3	112.3	
十	月.....106.0	111.8	
十一	月.....105.5	113.8	
十二	月.....104.7	114.6	

上ノ如ク一九〇七年十月ヨリ一九〇八年二月

ニ至リ八分二厘ノ低落ヲ來シ一九〇七年ノ恐慌

ノ月ナル同年十月ヨリ十一月ニ至リ五分下落セ

リ。一九〇九年十一月ヨリ漸次物價騰貴シ一九

一〇年四月九日ニ終レル一週間ニ至リテ最高點

(二二〇・五)ヲ示セリ。即チ一割七分二厘ノ暴

騰トナレリ。茲ニ注目スベキハデイングレー關

稅法實施後即チ一八九八年ヨリ漸次ニ騰貴シベ

イン關稅法實施後更ニ其度ヲ加ヘ一九一〇年四

月ニ至リテ最高度ニ達シタルコト之レナリ。

次ニ生活必需品ノ價格騰貴ヲ示サン。

	一九〇〇年	一九〇一年	增加率
麥粉(「パール」ニ付)	七五〇	二二〇—二四〇	割 割
卵(「ダース」ニ付)	〇四四	〇六—一〇〇	七三—一三七
「バター」(一封度ニ付)	〇五〇	〇六—一〇〇	五二—一六〇
乾酪(一封度ニ付)	〇二六	〇五二	一〇〇
牛肉(上等)(同)	〇二〇	〇四四	一二〇
牛肉(下等)(同)	〇一六	〇三三	一〇〇
「ラム」(同)	〇二〇—〇三三	〇三—〇四四	二〇—三六
家禽(同)	〇二四—〇二六	〇四—〇五	八三—一〇〇
「ポテト」(「アツセ」ニ付)	一〇〇	二〇〇	一〇〇
石油(「ガロン」ニ付)	〇一四	〇一六	八六
砂糖(一封度ニ付)	〇一〇	〇一四	四〇
豚脂(同)	〇二六	〇二六	一〇〇
薪木	六〇〇—八〇〇	二二〇—二六〇	四〇—一〇〇
材木			

此ノ如キ法外ナル騰貴ニ對シテ「リボン」絹物及ビ果物ノ如キ市價ハ少シク下落セリ。之ヲ要スルニ贅澤品ハ概シテ少シク低落セルモ被服類食料品及材木ノ如キ必需品ノ市價ハ著シク昂騰

セリ。

以上米國ニ於ケル關稅改正後ノ物價騰貴殊ニ生活必需品ノ暴騰ノ事實ヲ數字ニテ是ヲ明カニセリ。此ノ結果下層一般労働者ハ勿論中等階級ノ人々モ皆均シク生活難ヲ絶叫スルニ至リ殆ンド上下ヲ通ジテ其影響ヲ蒙ムレリ。

幾多ノ經濟學者ハ競ウテ是レガ研究ヲ試ミ其結果ヲ發表セルモ意見區々トシテ歸スル所無ク一般ニ確實ナル原因ト認ムベキモノ無シ上ノ如ク異常ナル物價騰貴ハ米國ノミニ特殊の原因ニヨルモノナルカ將又一般的世界的原因ニヨルモノナルカ。此ノ點ニツキテモ議論一致セズ。然レドモ余輩ハ是レ左ノ如キ世界的一般的原因ニヨルノ外米國ノミニ存スル特殊原因ニ基クモノナリト信ズ。

(一)一般的原因ハ金供給ノ増加(銀行券ノ増加信用取引ノ膨脹ヲモ含ム)ナリ。

(二)特殊的原因ハ自然富源ノ濫費冷蔵庫組織

農業ニ關スル各種ノ事情「トラスト」保護關稅人口ノ増加生活程度ノ向上奢侈の生活投機仲立人ノ多キコト市稅ノ増加等其重ナルモノナリ。

是等略述セル各種ノ原因ハ相寄り相助ケテ這回異常ナル物價騰貴ヲ來セルモノナリ。(註)

(註)今左ニ上院生活費調査委員ノ報告ニカ、ル結果ヲ左ニ摘錄セン。(甲)一九一〇年六月二十三日發表セルモノ

(乙)一九一〇年八月中旬發表セルモノ

(イ)田舎ノ人民ガ切りニ都會ニ集中スルコト。

(一)主タル原因
(ロ)一般ノ生活狀態ガ非常ニ向上シテ其結果不相應ニ需用ヲ増加シタルコト。

(ハ)田畑ノ生産物ノ生産費ノ増加シタルコト。

(ニ)田畑ノ生産物其他食料品ニ對スル需用ノ増加シタルコト。

(ホ)食物生産者ガ其業務又ハ其場所ヲ變更シテ食物消費者トナリタルコト

(ヘ)土地生産力ノ減少シタルコト。

(二)從タル原因

(ト)農業地方ニモ銀行ノ増設ヲ見農家ハ其收穫物ヲ直ニ販賣スルコト無ク是ヲ有利ニ販賣センガ爲長ク保存スル力ヲ有スルコト。

(チ)運送可能品タル材木ノ如キ供給ノ減シタルコト。

(リ)冷蔵庫組織。

(ヌ)分配費用ノ増加。

(ル)産業ノ合同。

(テ)生産者若クハ商人ノ聯合。

(ワ)廣告法ノ進歩シタルコト。

(カ)其他ノ原因。

(乙)上院少數黨ノ報告左ノ如シ。

(二)主タル原因

(イ)保護關稅。

(ロ)「トラスト」

(二)從タル原因、多數黨ノ調査ニカ、ル原因ノ一部是等ノ調査報告ヲ見ルニ其相違ハ前者ハ保護關稅ヲ認メザルモ後者ハ之ヲ認メタルノミナラズ「トラスト」ト共ニ主因トシテ重要視シタルコトナリ。

然レドモ經濟學者ノ論定タル金ノ増加ヲ其原因ニ數ヘザルハ同一ナリ。要スルニ兩者孰レモ政黨の見解ニヨリ事實ヲ蔽ヒ公平ヲ失シタルノ觀アルヲ以テ其報告ノ如キ眞ヲ傳フモノ

トハ信ズベカラズ。

グラーク教授ハ生活費ノ増加ノ原因トシテ第一供給ヲ減少スルモノ(勞働組合、生産費ノ増加自然富源ノ濫費關稅、「トラスト」第二需要ヲ増加スルモノ(投機奢侈的生活生活程度ノ向上人口ノ増加)ヲ掲グ此等各種ノ事實ハ生活費ノ増加及ビ物價騰貴ノ原因トシテ數フルニ足ラザルヲ詳述シ金産額ノ増加ハ一般的世界的ニ物價騰貴ノ主因ナリト斷シ次ノ如ク論結セリ。

(イ)物價騰貴ハ金ノ產出方法ニ變化ヲ生ゼザレバ到底免ルベカラズ、世人往々其責ヲ關稅「トラスト」等ニ歸スルガ如キハ謬見ナリ。

(ロ)物價ノ騰貴ハ大ニ樂觀スベシ。之レ經濟界ノ順境ヲ示スモノニシテ恐慌後ノ反動ナリ。

ヒツシアール教授ノ如キハ物價ノ騰貴ハ流通貨幣高及ビ預金高ノ膨脹ニ因ルモノニシテ其貨幣及預金増加ハ金產出ノ増進ニ基クモノナリ換言セバ生活費ノ暴騰ハ金產出ノ一大激増ニ因ルヲ以テ其原因ヲ「トラスト」(勞働組合等ニ歸スベカラズト云ヘリ。シモンハツドレー等ノ諸教授亦此ノ說ヲ採レリ。

次ニホルス教授ノ意見ヲ見ルニ其要ハ次ノ如シ。

異例ナル米國ノ物價騰貴ハ種々ナル原因ガ種々ニ錯綜シテ働ク結果ニシテ單純ニ之ガ解決ヲ下スベカラズ。勿論過去十

五箇年間ニ於テ諸外國亦物價騰貴ノ現象ナキニアラザルモ之ヲ米國ニ比較セバ其程度米國ノ如ク甚シカラズ。サレバ米國ノ物價騰貴ハ外國ノ現象トハ左程密接ナル關係ヲ有セズ地方的ノ原因ニヨルモノナルヲ察シ得ベシ。而シテ今ヤ金ハ人々ノ唱導スルガ如ク物價ノ高低ヲ左右スル唯一ノ標準ニアラザルナリ。何トナレバ金ノ產出増加ハ總テノ國ヲ通ジテ同一ノ程度ニ於テ物價ヲ高ムルヲ以テナリ。

保護政策ノ物價騰貴ニ與ツテカアルハ何人モ認ムル所ニシテ唯其議論ノ生ズルハ之ヲ以テ其主因トナスト一因トナストノ如何ニ在リ。余輩ハ上ノ如ク唯一ノ原因ナリト信ズルモ實際ニ於テハ米國ノ輿論ハ全然保護關稅換言セバベイン關稅ヲ以テ這回物價暴騰ノ最大原因トナセリ。或極端ナル一論者ハ曰ク『英國加奈陀ニ在リテハ三割五分乃至四割ノ物價騰貴ナルニ米國ハ六割乃至八割ノ暴騰ヲ示セリ。米國民ハ決シテ三四割ノ騰貴ニ對シテ不平不滿ヲ唱ヘザルモ六割乃至八割ナルニ至リテハ默スルコト能ハズ。此ノ如ク外國ニ比シテ倍增ノ騰貴ハ保護關稅竝ニ

其保護ニヨリテ獨占の大勢力ヲ得タル「トラスト」ノ橫奪ニ因ルモノナリ。之ヲ金ノ產出増加ニ歸スルガ如キハ實ニ道德上ノ犯罪ナリ」トセリ。是レ余輩ガ服スル能ハザル議論也。此ノ如ク難ズル者ハ保護關稅ハ物價ヲ騰貴セシムルモノナリ。保護關稅ハ「トラスト」ノ母ナリ。而シテ「トラスト」ハ絶對ニ消費者ニ取リテ有害ナリト信ズルガ爲メナリ。換言セバ米國ノ關稅ハ高率ナリ米國ニ於ケル生活費暴騰セリ。其故ニ保護關稅ハ生活費暴騰ノ責ヲ負ハザルベカラズトナスモノナリ。幸ニシテ這回物價騰貴ハペイン關稅法ノ實施ト同時ニ更ニ其度ヲ加ヘタルヲ以テ高保護關稅ヲ快トセザル者ハ誇張的ナル議論ヲナシテ盛ニペイン關稅ヲ非難攻撃セリ。其議論ノ極端ニ走リテ正鵠ヲ得ザル固ヨリ其所ナリ。或ル學者ハペイン關稅ヲ以テ物價騰貴ノ原因ナリトスルモノニ賛成スルコト能ハズトシテ(一)物價ノ急激ナル騰貴ハ英國ニ於テモ之ヲ見ルコト

(二)米國ノ關稅ハ南北戰爭後毫モ變動無キコト
(三)穀物又ハ材木ノ關稅ハ名目又ハ低率ナルニ
此ノ種ノ貨物モ亦非常ナル騰貴ヲ示シタルコト
(四)アル種ノ貨物ノ關稅ハ常ニ同率ナルニ其價格ハ常ニ變動スルコト等ノ四事實ヲ掲ゲタリ。
然レドモ第一ノ點ハ尙ホ未ダ信服スルニ足ラズ
ノートン教授ノ物價指數ニヨリテ英米ヲ比較セ
ンニ米國ニ於テハ一八九六年ハ其指數八十六ナ
リシニ一九一〇年二月ニハ百四十三ヲ示シ六割
六分ノ騰貴ヲ來シタルモ英國ニアリテハ同期間
約三割ノ騰貴ニ過ギズ。而シテ第二以下ノ論旨
ハペイン關稅ヲ極力攻撃スル者ニ取リ一考ノ値
ナシトセズ。勿論或ル貨物ノ如キハ關稅率ノ増
加ニヨリ騰貴ヲ來シタルモ關稅ノ支配下ニアラ
ザルモノモ騰貴セシモノアリ。又關稅ノ影響ヲ
受クベキモノニシテ長キ間殆ンド變動ナキモノ
アリ。ペイン法ニヨリ皮革ヲ無稅トシ靴ノ値段
ヲ低減セントシタルモ却テ騰貴シ材木銑鐵羊毛

石炭及「バルブ」等ノ原料品ヲ低稅セシモ此等ノ精製品モ上騰セリ。茶珈琲等ハ常ニ無稅ナルモ亦然リ。故ニペイン法實施後物價ハ騰貴シタルモ之ヲ以テ直ニ其罪ヲ同法ノミニ歸スルハ理ニ於テ暗キヲ知ルベシ。

サレドペイン法ヲ以テ物價騰貴ノ一因トシ最モ非難スベキ場合ハデイングレー法ニヨリテ十分發達伸張ナシタル貨物ニ對シテ依然其高率ヲ持續スルガ爲唯「トラスト」ノ私利ヲ増進セシムルコト是レナリ。即チ米國ニ於テ關稅ハ「トラスト」ノ母ナリテフ語ノ流行スル所以ナリ。此ノ如キ不必要ナル而モ有害ナル關稅ハ之ヲ輕減スルカ若クハ除去シテ其病源ヲ斷ツコトヲ要ス（其二） 財政上ニ及ボシタル影響

關稅改正ヲ必要トシタル理由ハ前ニ之ヲ明カニセリ。政府歲入不足ノ補填策ノ如キ其一ニ數ヘタリ。米國ハ從來歲入過剩ヲ以テ有名ナル國ナリシモ近年海軍擴張ノ如キ軍事費ノ膨脹ヲ來

シタル結果漸ク不足ヲ告グルニ至リ一九〇九年度ノ如キ一億八千萬圓以上ノ多キニ達セリ（註）故ニ關稅改正ヲ好機トシ之レニヨリテ其不足ヲ幾分補填センコトヲ期セリ。之レガ爲實施後如何ナル結果ヲ財政上ニ與フルカハ當初世人ノ注目セシ所ナリ。

（註）

六 月 三 十 日 終 年度	剩餘金額
1890.....	85,040,272 弗
1900.....	79,527,060
1901.....	77,717,984
1902.....	91,287,375
1903.....	54,297,667
1904....×	41,770,573
1905....×	23,004,229
1906.....	25,669,323
1907.....	84,236,885
1908....×	58,070,201
1909....×	90,225,329

×チ附記シタルハ不足額

今次ニ在紐育帝國領事館報告ニヨリ一八九一年ノマツキンレー關稅法以來現行ペイン關稅法迄ノ四箇ノ異ナル關稅法ニ於ケル輸入額及關稅收入額ヲ示サン。

關稅法

年度(自八月三十一日)輸入額(金額ハ百萬弗チ單位トセリ)

無稅品 有稅品 合計 關稅收入

マツキンレー關稅法

一八九二年	三七八〇	四萬四千八百四	三二二
一八九三年	四萬六二	三九九九	八六一
一八九四年	四萬四二	四一九七	八三九
一八九五年	三六七六	二九九五	六五七一
一八九六年	三九六六	三九二二	七六八
一八九七年	三八八五	三七七八	七六三
一八九八年	二八一七	三二一六	六二三
一八九九年	三〇六六	三九九六	七〇六二
一九〇〇年	三六三三	四〇〇一	八五三五
一九〇一年	三六五五	四八七一	八三三六
一九〇二年	三九一二	五〇二二	九〇九四
一九〇三年	四三三三	五九六五	二〇八六
一九〇四年	四四九四	五〇〇七	九八〇一
一九〇五年	五二二八	六〇九〇	二二〇八
一九〇六年	五五四九	六八九七	二四四六
一九〇七年	六九九五	九七〇一	二四五六
一九〇八年	五七七六	六八六二	二五六二
一九〇九年	六〇六七	七三三三	二三八〇

ウイルソン關稅法

一八九二年	三七八〇	四萬四千八百四	三二二
一八九三年	四萬六二	三九九九	八六一
一八九四年	四萬四二	四一九七	八三九
一八九五年	三六七六	二九九五	六五七一
一八九六年	三九六六	三九二二	七六八
一八九七年	三八八五	三七七八	七六三
一八九八年	二八一七	三二一六	六二三
一八九九年	三〇六六	三九九六	七〇六二
一九〇〇年	三六三三	四〇〇一	八五三五
一九〇一年	三六五五	四八七一	八三三六
一九〇二年	三九一二	五〇二二	九〇九四
一九〇三年	四三三三	五九六五	二〇八六
一九〇四年	四四九四	五〇〇七	九八〇一
一九〇五年	五二二八	六〇九〇	二二〇八
一九〇六年	五五四九	六八九七	二四四六
一九〇七年	六九九五	九七〇一	二四五六
一九〇八年	五七七六	六八六二	二五六二
一九〇九年	六〇六七	七三三三	二三八〇

デイングレー關稅法

一八九二年	三七八〇	四萬四千八百四	三二二
一八九三年	四萬六二	三九九九	八六一
一八九四年	四萬四二	四一九七	八三九
一八九五年	三六七六	二九九五	六五七一
一八九六年	三九六六	三九二二	七六八
一八九七年	三八八五	三七七八	七六三
一八九八年	二八一七	三二一六	六二三
一八九九年	三〇六六	三九九六	七〇六二
一九〇〇年	三六三三	四〇〇一	八五三五
一九〇一年	三六五五	四八七一	八三三六
一九〇二年	三九一二	五〇二二	九〇九四
一九〇三年	四三三三	五九六五	二〇八六
一九〇四年	四四九四	五〇〇七	九八〇一
一九〇五年	五二二八	六〇九〇	二二〇八
一九〇六年	五五四九	六八九七	二四四六
一九〇七年	六九九五	九七〇一	二四五六
一九〇八年	五七七六	六八六二	二五六二
一九〇九年	六〇六七	七三三三	二三八〇

ペイン關稅法 一九〇〇年 表六〇 九四六一零三六 三七九

右表ニ據リテ現行ペイン關稅法實施以來滿一箇年間ニ於ケル輸入額ハ前古未曾有ノ巨額ニ達シ而シテ其關稅收入ハ一九〇七年度ヲ除ケバ是レ亦最高額ニ達セルヲ見ルベシ大統領ハ同一〇年十二月六日議會ニ與ヘタル敎書中ニペイン法ハ收入増加ヲ圖ル上ニ於テ有史以來ノ效果ヲ收メタルコトヲ述ベタリ。又或ル者ハ直ニ同法ノ良果ヲ云々スレドモ之レ甚ダ早計ナリト云フベシ。何トナレバ同法實施後尙ホ通商諸國トノ互惠條約依然トシテ存在シテデイングレー關稅率ノ適用アリ且ツ幾多ノ貨物ノ見越輸入アリタルノミナラズ物價ノ騰貴ハ輸入増加ヲ促進セシメタル等ノ理由ノ存スレバナリ。故ニ本問題ハ尙ホ今後ノ事實ニ徴シテ研究ヲナスコトヲ要ス。

(其三) 政治上ニ及ボシタル影響

米國ノ政界ハ宛然共和民主二大政黨ヨリ成リ上下兩院アリテ國會ヲ組織スルモ各議員ハ全然

無勢力ニシテ下院ノ實權ハ議長及ビ常置委員會會長ノ掌中ニ在リ。而シテ上院モ亦常置委員會會長ノ專斷ナリト云フモ決シテ過言ニアラズ。殊ニ下院議長ハ同會ノ委員任命權ヲ有スルヲ以テ其勢力殆ンド絶大無限ト云フモ可ナリ。

ペイン關稅法制定ニ當リテ共和民主兩黨ハ孰レモ其責ヲ有スルモ同案起草者タル下院豫算委員長ペイン氏監督者タル議長カンノン氏上院ノ法案起草者タル財政委員會會長オルドリツチ氏及ビ同案ヲ承認セルタフト氏ノ四名ヲ以テ責任代表者ト云フ事ヲ得ベク殊ニカンノン氏オルドリツチ氏ハ之ガ制定ニ關シ傍若無人ノ振舞ヲ演ジタルハ掩フベカラザル事實ナリ。此等四氏ノ制定ニカ、リタル如キ觀アルペイン法案ノ通過ニ對シテ下院ノ民主黨及ビ共和黨ノ所謂反派ハ勿論オルドリツチ氏ノ專橫ヲ快トセザル上院ノ急進一派モ亦激烈ナル反對ヲナセリ。同案通過後輿論ハ共和黨ノ言質不實行ヲ難ジテ同法ヲ攻撃

セリ。然ルニ大統領ハ到ル所ニ於テ同法ノ最良ナルヲ稱賛シタルノミナラズペイン、オルドリツチ、カンノン三氏ノ爲メ大ニ辯護演說ヲ試ミタルヲ以テ却テ同法非難ノ聲ハ絶頂ニ達シ益々共和黨ノ内訌ヲ増進セリ。昨年六月ローズベルト氏阿弗利加ノ遊獵西歐ノ長途ヨリ歸國スルヤ忽チ政爭ニ身ヲ投ジ後新國民主義ヲ宣傳シ專ラ富豪ヲ攻撃シ共和黨ノ謀反派ノ爲メニ擁立セラレテ其統領タル觀ヲ呈シ又自モ之ヲ許容セルガ如シ。然ルニ其後ロ氏ハ各地ニ於ケル選舉應援演說中タ氏ノ施政ヲ是認セシノミナラズペイン關稅法ヲ最良ナリト稱賛セシガ爲メ急進的共和黨ヲ失望セシメ統領トシテ尊敬セル反派共和黨ヨリ排斥セラレタリ。玆ニ於テ其ノ内訌ノ紛擾ハ更ニ其度ヲ加ヘタリ。此ノ如キ内訌ニ際シ民主黨ノ大ニ乗ズル所トナリ昨年十一月ノ選舉ノ結果ハ民主黨ノ大勝トナリタリ。

今次ニペイン關稅法ニ對スル不平不滿ハ國論

ノ趨勢ナリシ證左ヲ示サン。

カンノン氏ハ在職會期ニ亘リテ權威ヲ逞ウシ選舉ノ結果イリノイス州、ダンヴェル市ヨリ當選セシモ既ニ昨年三月十九日議長ノ席ヨリ放逐セラレタルヲ以テ全然從來ノ勢力ヲ滅失セリ。

オルドリツチ氏ハ自黨ノ反抗ニヨリテ引退ヲ餘儀ナクセラレ過去三十年間財政委員會々員ノ古參者トシテ有名ナルモ本春ヨリ斷然政界ヨリ脫スルコト、ナレリ又彼ノペイン氏ハ選舉ノ結果ハ遂ニ落選ノ運命ニ陥リタリ。

之ヲ要スルニペイン關稅法ハ共和黨ノ内訌ヲ助長シ延イテ政治上ニ一大變動ヲ馴致セリ。

(五) 結 論

熟々這回關稅改正ノ結果ヲ按ズルニ其稅率ノ改廢取捨頗ル姑息ヲ極メ低減改正ノ實ヲ舉グルコト能ハザリシハ上述スル所ニヨリテ明カナリ之ガ爲メ世人ヲシテタワト大統領ノ無能ヲ叫バシメ又共和黨政綱ノ違背ヲ唱ヘシメタルナリ。

同黨近時ノ失勢ニ就テハ固ヨリ種々ナル原因アリト雖モ關稅改正ノ處理ノ宜シキヲ得ザリシガ如キ其最モ甚シキモノナリ。之レガ爲メ偶々物價騰貴ハ延イテ生活難ヲ生ジタルモ亦關稅改正ノ缺點ニ因由スルモノナリト云フニ至レリ。此ノ如キ非難ヲ招クニ至リタル原因ハ米國關稅法案作成其當ヲ得ザルニ座スルモノナリ。換言セバ議會ニ於ケル委員會ノ調査資料ニ基キテ之レガ成案ヲ立ツルノ不可ナルニ在リ。直接其調査ノ任ニ當ルベキ下院ノ豫算委員會ヲ見レバ其委員ノ一二人士ヲ除ケバタウシツグ氏ノ云フガ如ク關稅率ハ勿論現今米國ノ産業狀態ニ通曉セザル者ヲ以テ組織セラル、ナリ。其關稅率ノ基礎タルベキ參考資料モ亦全然利害關係者ノ提出ニカ、ルヲ以テ公平無私ヲ得ザル固ヨリ論無シ。故ニ此ノ如キ根本ヲ矯メズシテペイン關稅法ヲ評シテ或ハ最良ノ法ナリト云ヒ或ハ最惡ノ法ナリト云ヒ或ハ又平均稅率ノ新舊ヲ比較シ其増減

ニツキ云爲スルモ徒勞ニ終ランノミ當初ノ政綱ヲ遂行スルコト能ハザル決シテ怪ムニ足ラザルナリ。當局者ハ之レニ對シテ數多ノ辯護ヲ試ム

ルモ多々益々米國一般人士ノ反抗心ヲ増長セシムルニ過ギザルヲ思ハザルベカラズ。是レ實ニ輿論ノ一角ヨリ議會ニ於ケル委員會ノ關稅法案作成方法ヲ全廢シテ專門家ヲシテ之レニ代ハラシメントノ說ノ生ジタル所以ナリ。サレド此ノ如キ議論ハ立法者ノ反對アリテ其實行到底不可能ナリ。故ニ專門家ヲ以テ組織スル永久の無偏無黨ノ關稅調查機關ヲ設ケ同機關ヲシテ關稅ニ關スル資料ヲ蒐集調査セシメ之レヲ議會ニ於ケル關稅法案作成ノ基礎材用トナサシムルコトヲ要ス、米國關稅法ノ改正ヲシテ輿論ノ趨勢ニ從ヒ低減改正ノ實ヲ舉グル爲メニハ此ノ如キ方法ニヨルノ外他ニ一大良策アラザルベシ。故ニ若シ米國ニシテ此ノ如キ方面ニ其歩ヲ進ムルナラバ米國關稅改正ニ一大光明ヲ與フルト云フモ決

シテ過言ニアラズ、今ヤ再度ノ改正問題ノ起リタル時ニ於テ此ノ方面ニ一步ヲ進メタルヤ否ヤ節ヲ新メテ論ゼント欲ス。

終リニ臨ミテ一言スベキハ米國關稅改正問題ハ未ダ保護ノ程度問題ニシテ其保護關稅ヲ撤廢スベキヤ否ヤノ問題ニアラザルコト之レナリ。米國ニ於ケル保護政策ノ如キ云ハ傳來的ニシテ所謂米國式トモ見做スベキモノナリ。關稅改革運動ノ英國ニ起ル迄長期間英國人ノ自然ト見做シタルモノハ實ニ自由貿易政策ナルガ如ク米國ニアリテモ他ノ意味ニ於ケル關稅改革ノ思想ノ起ルガ如キ事ナクバ米國人ノ腦裡ヨリ保護政策ナル思想ヲ除去スルコト能ハザルベシ。故ニ關稅改正問題ハ單ニ保護ノ程度問題ナルコト明カナリ。保護政策ノ急激ナル變動ノ不可ナルヤ論無シ宜シク其政策ハ漸ヲ追ウテ變更ヲ行ハザルベカラズ。

第二 關稅改正問題

抑々關稅輕減改正ガ米國ノ大問題トナルニ及ビ其改正ノ主タル目的ハ屢々大統領ノ聲明シタルガ如ク苛重ナル關稅ヲ輕減若クハ除去シテ一切ノ課稅ヲ公平ナラシムルニアリタリ。然ルニ上來論述セル如クペイン關稅法ハ改正ノ實ヲ遂ゲタルモノニアラズトノ非難ニ搗テ加ヒテ生活費暴騰ノ根源ヲナスモノトシテ甚シク内價值ヲ失シ全然其信用ヲ減却セリ。民主黨及共和黨ノ反派ハ此ノ機ニ乘ジテ現行法ニ反對ヲ試ミ内外ノ論客モ亦其稅率ノ過酷ナルヲ痛論シテ之レガ改正ヲナスベキコトヲ唱導セシカバ米國ノ輿論ハ期セズシテ其改正ノ要ヲ認ムルニ至レリ。サレバ米國民中ニアリテモ現行法ヲ以テ満足シ其變革ヲ好マザル者アリ。或ハ特殊ノ利益ヲ受クル製造業者ノ如キ或ハ改正ニヨリテ賃銀ノ低廉トナランコトヲ恐ル、者或ハ又市場ニ重大ナル動搖ヲ來スベキヲ嫌忌スル實業家ノ如キ之レナリ。然レドモ上ノ如ク一般之レガ改正ノ必要

ヲ感ゼザル者ナク殊ニ民主黨ハ勿論共和黨ノ多數モ亦之レヲ認ムルハ同黨議會ガ既ニ關稅調查局ヲ設置シ汎ク諸種ノ材料ヲ蒐集シテ改正ノ手段ヲ考究シツ、アルヲ以テ知ルニ足ラン。サレバ現今ニアリテハ現行法ヲ改正スベキヤ又之レヲ其儘ニ据エ置クベキノ問題ニアラズシテ實ニ之レガ改正ノ目的及ビ改正ノ方法ノ二ナリ。以下之等ノ點ニ論及セントス。(未完)

ユダヤ人ト經濟生活 (其二)

商學士 大西猪之介

[W. Sombart, Die Juden und das Wirtschaftsleben. Leipzig, 1911.ノ梗概]

第一編 近代國民經濟ノ建設ニ對スル猶太

人ノ參與 (承前)

第六章 經濟生活ノ商化

第二節 有價證券ノ成立 (前號所載)